同志社大学

心理学部

Doshisha University Faculty of Psychology

ココロを科学する

ココロを科学する

SINCE 1927 DOSHISHA UNIVERSITY FACULTY OF PSYCHOLOGY

同志社大学

ココロを科学する

世界がどれだけ発展しても、原点にあるのは人のこころ。
ときに心理学は、現代社会を多面的に
解き明かす光となります。
それゆえ、心理学は今や産業、教育、司法など、
実に幅広い分野で活用されているのです。
また、本学は90年以上にわたって心理学を研究し、
多様な領域を学ぶ環境と実践的な
カリキュラムを充実させています。
心理学を学ぶことは、すなわち「社会を見つめる目」を磨くこと。
あなたも、社会に活かせる学びを身につけませんか。

Message

学部長挨拶

心への
興味を学ぶ力に

心理学は心と行動を対象とするサイエンスです。法則性や理論を探求する基礎研究と、その成果をさまざまなフィールドに適用して私たちの生活の改善をめざす応用実践を共に重視し、これらを融合させ発展させることが同志社大学心理学部の使命です。
「心理学」というとカウンセリングのような臨床心理学がイメージしやすいと思いますが、それだけではありません。勉強することも、遊ぶことも、商品を買うことも、全て私たちの行動です。ですから、教育や経済、環境問題など、人間の営みに関わる全てが心理学の対象になります。つまり、カウンセラーや研究者のような心理学の専門職に就く人だけでなく、どのような進路に進む人にも心理学の学びは有益なものとなるのです。
本学部ではスタッフ一同で皆さんの積極的な学びと学生生活をサポートします。学問に本格的に取り組むことを通して自分で考える力を身につけてください。その力は、社会がどのように変化しようとも、皆さんの人生の道標となるでしょう。

同志社大学 心理学部長　青山 謙二郎教授

基礎と臨床をつなぐ、バランスの取れた心理学教育

「基礎心理学を主たる研究領域とする研究者は、
常に臨床（応用）にも眼を向けなさい。
臨床（応用）心理学を主たる業務とする実践家は、
常に基礎の知見にも眼を向けなさい。」
これは同志社心理に言い伝えられてきた言葉です。
人という複雑な対象を理解し、
それを実践するには、さまざまな見方が必要です。
同志社心理は、基礎と臨床（応用）の
バランスが取れた教育を目指します。

Fundamental

基礎

「基礎」研究力とは、科学的な方法論を駆使して、普遍的な知を創出する能力のことを指します。特に心理学では、論理力、観察力、そして分析力を基盤にして、具体的な現象に潜む普遍性を実証的に探求していく能力のことを意味します。ここで得られた普遍性は、時に常識とはかけ離れたものであるかもしれません。しかし、良心に基づいて、臆することなく、それを社会に発信していくことが必要です。なぜなら、そのような行為は、自由を守ることにつながるからです。

{ 身につく能力 }

- 論理力
- 観察力
- 分析力
- 情報収集力

Applied

応用

「応用」力とは、科学的な方法論を駆使して、社会問題を解決する能力のことを指します。特に、問題となっている場面に即したテーラーメイドな解決方法を提案し、実行・運用していく能力のことを意味します。また、他の専門家と連携しなければならないことが少なくありません。そのような時にこそ、実証に裏付けられた普遍性を踏まえながら、その場で得られたデータに基づいてコミュニケーションを交わすことが必要です。なぜなら、そのような行為は、フェアなコミュニケーションを可能にし、相手を尊重することにつながるからです。

{ 身につく能力 }

- 問題解決力
- 創造力
- 実行力
- 発信力

目指すべき人材（物）像

心理学部心理学科では、観察・分析力、論理力、発信力の育成を基盤に、実証的な姿勢で「人のこころ」にアプローチできる人材の養成を目指している。キリスト教主義の精神に基づく教育環境の中で培われる高度な専門知識と技能は、心理学の専門家として、また社会のさまざまな分野で、良心をもって活躍する有為な人材を育成するための素地となる。

アドミッション・ポリシー

心理学部では、心の仕組みに関する知識や技能を基礎から応用まで体系的に学び、論理的な思考とデータによる実証を重視する姿勢を身につけることで、習得した知識や技能を適切に運用し、心理学の成果を社会に向けて主体的に発信できるようになることを目的としています。心理学の専門家として、人の心に関心を持ち、心の問題に科学的にアプローチする能力を備え、現代社会のさまざまな分野において貢献できる人物の育成を目指しています。こうした観点から、心理学部では、次のような学生を求めています。

ディプロマ・ポリシー

知識・技能	こころと行動の仕組みとその機能を解き明かすための実証的な研究法を身につけ、それによって得られた専門的知識を実社会に活かすための方法論を理解できる。
思考力・判断力・表現力	根拠となるデータに基づいて論理的に思考することにより、実証的な姿勢でこころと行動の問題にアプローチするとともに、その成果を的確に発信できる。
主体性・多様性・協働性	こころと行動を科学的に探求し、その知識を核とした幅広い教養を活かした他者との協働により、社会のさまざまな領域において貢献できる。

心理学部の求める学生像

知識・技能

心理学部では、基礎心理学と応用心理学のバランスの取れた教育を通じて、心や行動の仕組みと機能に関する知識と技術の習得を目指しています。そのため、文系・理系を問わず、幅広い基礎知識が求められます。特に、一般的教養知識の習得や心理学の専門知識を身につける上で必要となる、日本語と英語の読解能力・表現能力を備えた学生を求めています。

思考力・判断力・表現力

自らの主張や論理を組み立てる力、現象を客観的に観察・分析する力、そして、得られた実証データについて主体的に発信する力に優れた学生を求めています。これらの能力は入学後に培われますので、すべてを兼ね備えておく必要はありませんが、論理と実証を基礎とした科学的な心理学の探求に強い関心を持つ人物こそ心理学部の求める人物像です。

主体性・多様性・協働性

入学後は、同志社心理の伝統である「少人数教育」に基づいて、教員と学生はもちろん、学生同士もしっかりと向き合って学び合う機会が設けられます。そのため、他者と協働して社会における問題の解決を試みる行動力を持ち、社会のどのような領域でも活躍できるような幅広い関心やコミュニケーション能力を備えた学生を求めています。

高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと

英 語

英語の基礎学力やコミュニケーション能力は、大学において広い範囲で一般的教養知識を深めるために必要です。また、心理学部では、心理学の最新の知識を得るために外国書や英語論文を読み込む機会も多くあることから、入学時より高い英語力が求められます。国際社会に貢献する人材となるためにも、高い英語の基礎学力や優れたコミュニケーション能力が求められることになります。

国 語

国語の基礎学力は、講義やゼミで文献を読んだり、実験レポートを提出したりする際に必要な能力です。論文で書かれていることを正確に読み取り、自らの実験・調査で得られたデータについて正確な解釈を行うためには、高い国語の運用能力が求められます。また、結果を的確かつ正確に発信する表現力にも国語の能力が求められます。このような読解能力と表現能力は、社会のどのような領域においても根幹となる重要な力になります。

地理歴史・公民

現代社会で発生する多様な問題への感度を高め、理解を深めるには、歴史的な視点と社会情勢に関わる基礎知識を有していることが望まれます。このような知識や感性は、キリスト教主義を原点とした国際的な視点と結びつきながら、現代社会の諸問題を把握し、その解決を目指す行動力につながっていきます。

数 学

心理学においては、統計学の手法や知識が求められます。必ずしも、これらを入学前に習得する必要はありませんが、数学的な論理的思考力を身につけておくことが望まれます。客観的な観察力や分析力の基盤といえる統計学の手法や知識は、メーカー、金融、商社、サービス、情報、公共など幅広い業界で有益なツールとなるでしょう。

理 科

心理学の一般知識には、脳・神経科学、生理学などに関する分野が含まれます。理科、特に生物についての一定の基礎学力を有していることが望まれます。生物に関する知識は、物事の原理・原則を見抜く力、生命に対する倫理観を培うとともに、健康、保健、福祉、医療などの分野で活躍するための応用力につながります。

Curriculum

実証的視点と高度な知識を身につけ、社会に広く貢献する人材を育む。

学びの特徴

Point 1

伝統の少人数教育

少人数科目を設置し、
きめ細やかな指導を実現

心理学部では少人数教育を重視しており、学生と教職員の距離が自然に近くなります。1年次のファーストイヤーセミナーから4年次の演習（ゼミ科目）まで、全学年で少人数科目を設置し、きめ細やかな指導を実現します。

Point 2

研究力の向上

興味ある分野を発見して学び、
研究色も高めていく

2年次からは選択科目Iより、あらゆる心理学を学べるようになります。「神経・行動」「臨床・社会」「発達・教育」と大きく3つの分野を示すことで、自身の興味・関心がどの分野に向いているのか確認することができます。また知識だけでなく、研究力をつけるために、演習や実習を重ねて行い、研究法についても学びます。

Point 3

実践力の修得

こころと行動の解明に必要とされる
実践的かつ専門的な技術へとレベルアップ

1年次と2年次で、実験と臨床心理学の基本的な技能を学びます。3年次のアドバンストクラス「心理学実験演習（上級）」、「心理学実験プロジェクト演習」では、実践的かつ専門的な技術へとレベルアップします。

履修プロセス 心理学部 心理学科【2019年度以降生】

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
必修科目	講義系	心理学概論（1）	心理学概論（2） 心理学統計法（1） 外国書講読（1）	心理学統計法（2） 臨床心理学概論	心理学研究法（1） 外国書講読（2）	心理学研究法（2）			
必修科目	実習・演習系	心理学実験（1） ファーストイヤーセミナー	心理学実験（2）	心理学実験（3）	心理学データ解析実習		プレ演習	演習（1）	演習（2） 卒業論文
選択科目I	A群 ［神経・行動心理学系科目］			スポーツ心理学／精神生理学／比較認知心理学／神経科学の基礎／食行動の心理学／生理心理学（神経・生理心理学）／学習心理学（学習・言語心理学I）／認知心理学（知覚・認知心理学）／感情心理学（感情・人格心理学I）／行動分析学（学習・言語心理学II）					
選択科目I	B群 ［臨床・社会心理学系科目］			環境心理学／臨床社会心理学／産業・組織心理学／交通心理学／リスク心理学／パーソナリティ心理学（感情・人格心理学II）／健康心理学（健康・医療心理学）／心理学的支援法／精神疾患とその治療／犯罪心理学（司法・犯罪心理学）／実験社会心理学（1）（社会・集団・家族心理学I）／実験社会心理学（2）（社会・集団・家族心理学II）					
選択科目I	C群 ［発達・教育心理学系科目］			発達心理学／乳幼児心理学／ヒューマン・モティベーション／高齢者心理学／障害者・障害児心理学／家族心理学（社会・集団・家族心理学III）／学校心理学（教育・学校心理学）／福祉心理学／教育相談の理論と方法／生徒・進路指導の理論と方法					
選択科目I	D群 ［共通］	心理学情報機器基礎／発達と学習の心理学		心理学史／心理学特論／心理的アセスメント		多変量解析法の基礎／心理学実験プロジェクト演習／心理学実験演習(上級)			
選択科目I	E群 ［公認心理師共通］			関係行政論／公認心理師の職責		人体の構造と機能及び疾病／心理演習		心理実習（1）	心理実習（2）

プロジェクト型への応用・探求

実験演習や卒業論文執筆は個人研究ではなく、一部を除いてチームを作ってプロジェクト型で実施しています。協力してデータ収集しているために、研究の水準は非常に高いレベルにあります。また、基礎から応用までさまざまな専門分野のゼミが開講されているので、学生がそれぞれに求める心理学を研究できます。

1年次［基礎］

ファーストイヤーセミナー

1年次の必修科目として「ファーストイヤーセミナー」があります。これは少人数のグループで、大学での学びに関する基本スキルを身につけるプログラムです。授業の後半ではグループで選択したテーマについて、ポスター形式の発表を行います。グループワークを通して、仲間や先生と密にコミュニケーションをとり、“考える力”と相手に“伝える力”を育みます。

2年次［発展］

心理学実験

こころと行動の基本的性質や法則性を科学的に探るには、実験が欠かせません。1年次から続く「心理学実験」では人の記憶や知覚の仕組み、対人場面での行動、動物の学習メカニズムなどに関する実験を実施します。目に見えないこころのプロセスをどのように客観的に測定し、どのように報告するのかなど、サイエンスの手法を段階的に修得します。

3年次［応用］

心理学実験演習（上級）

「心理学実験演習（上級）」では、自分の興味や卒業研究の計画に応じて、さらに高度かつ実践的なスキルを修得できます。例えば乳幼児の研究などに役立つ行動観察の技術を学ぶクラスや、コンピュータを利用した心理学実験の方法を学ぶクラス、ヒトの心拍数などの生理反応を測定するための解析法を身につけるクラスなどが選択できます。

4年次［探求］

卒業論文（ポスター発表）

4年次は学びの集大成となります。演習（ゼミ）で学生自身が興味のある分野について卒業論文のテーマを選択し、大学生活を通して学んできたことを活かして、卒業論文を完成させます。完成した卒業論文は教員や学生、またご父母の前でポスター発表を行います。論文作成の中で培われた知識やスキル、経験は将来必ず社会で役立つことでしょう。

3つのコースより Pick up

企画力や実践力、ディスカッション力など、さまざまな力を身につける。

自由に履修できる3つのコース

本学部では学生の視野を広げるために、3つのコースを設置。それぞれのコースで、複雑なこころの仕組みを探るための多様な専門科目をそろえています。卒業までに全てのコースから3科目以上履修することが求められます。また、1つのコースから6科目以上履修するとコース認定が受けられます。

心と身体、相互の関係の理解を深める演習です。一般的に“嘘発見器”として知られているものに類似した装置を使用し、質問をされた参加者の「心臓の鼓動が速くなる」「汗をかく」「顔が赤くなる」といった反応から、心の動きを推測します。参加者に電極を取り付けて心電図を測るなど、実際の犯罪捜査などで活用されている方法を学生自ら体験できるのが魅力です。もちろん、単にデータとして数値を測定するだけではありません。得られた結果の読み取り方などについても議論を行い、心身の関係について理解を深めます。また、さまざまな装置を使用した経験は、学生が論文を執筆する際に、実験の選択肢を増やすことにもつながります。

神経・行動

生体の反応から、
心の動きを読み取る。

臨床・社会

検査スキルに加えて、
適切な接し方も学ぶ。

コース名	内 容	卒業研究のテーマ（例）
神経・行動心理学コース	近年めざましい発展をみせている最新の脳科学や行動科学を学びます。心と行動の神経・生理的な基盤と行動そのもののメカニズムを中心に学習し、心と行動について生物学的・行動科学的に理解する能力に特に秀でた人材となることを目指します。	■ 空間認知における脳のはたらき ■ ポリグラフ検査における情報既知性についての検討 ■ 活動性拒食症のラットにおける食事の予期の効果
臨床・社会心理学コース	心の問題の解決を目指す臨床心理学と社会における心と行動の理解を目指す社会心理学を学びます。心の問題を解決する能力と心理学の知識を対人関係の中で活かす能力に特に優れた人材となることを目指します。	■ ストレス条件下における身体反応と感情 ■ うつ症状の臨床行動分析 ■ 返報性の観点からみた試供品配布の効果
発達・教育心理学コース	生涯発達的な観点から心の発達と教育に関するメカニズムおよびその支援の基礎知識を中心に学びます。発達や教育に関連する問題について適切な理解と支援を行う能力に特に秀でた人材となることを目指します。	■ 自由遊び場面における乳児の人見知り行動 ■ 目標が課題達成に及ぼす影響 ■ 児童・生徒における異年齢交流の教育的効果

写真では『ウェクスラー式知能検査』に取り組んでいます。この検査は幅広い年齢を対象とすることができます。その中でも成人向けの『WAIS-III』を実施しました。「絵画完成」「積み木模様組み合わせ」といった動作性検査と、「単語」や「算数」といった言語性検査から構成され、言語性IQ（理解力や記憶力など）と動作性IQ（図形や記号の処理能力など）、そしてそれらを総合した全検査IQに分けて知能水準を算出することが可能です。
また、演習では実験者だけでなく参加者の立場も経験するので、検査のスキルに加えて参加者への接し方なども修得できます。学内の演習で経験を積み、学外での検査にも挑戦します。

発達・教育

信頼関係を築きながら、楽しませる術を磨く。

さまざまな心の側面を測る心理検査（知能検査、パーソナリティ検査、投影法）について学びます。写真で行われているのは、子どもを対象とした『田中ビネー知能検査』です。ロールプレイを行って参加者となる子どもの知能指数を算出し、得られた結果を解釈・分析する練習も行います。
子どもを対象に検査を行う場合、特に重要なのが参加者とラポール（相互の信頼関係）を築きながら楽しんでもらうこと、そして手際よく正確に進めることです。この演習では、その両方を修得することができます。他にも多様な検査を行うので、心理検査に興味がある人や、臨床心理士を目指している人に適した実習です。

Pick up Topic

心理学の視点で『犯罪』に迫る。

ニュースを見ていると、毎日のように犯罪事件のことが報道されています。

罪を犯すのがヒトであれば、罪を被るのもヒト。

その罪を立証したり裁いたり更生させるのもヒトです。

「犯罪」に関することには、心理学が大いに関係しています。

「なぜ人々は犯罪が多いと思い、不安を感じるのか」

KEY WORDS

リスク認知

犯罪被害や災害などさまざまなものごとに対する主観的なリスク評価のこと。客観的なリスク評価は被害の重大性と生起確率からなりますが、一般市民のリスク認知がその通りになるとは限りません。このため、市民と専門家の評価は乖離することがあります。

犯罪不安

犯罪被害に遭うことに対する不安のこと。犯罪に対するリスク認知が高いほど不安も高いことが知られています。報道や人づてに犯罪被害を聞いたり、落書きやポイ捨てなどで近隣の秩序が乱れていると感じると高くなることがあります。

ヒューリスティックス

簡便で素早い思考方略のこと。代表的な例が、容易に思い出せる事例を典型的だと考える方略である利用可能性ヒューリスティックです。報道でよく聞いていて思い出しやすい事件を、実際は珍しくても沢山起きていると考えてしまうのはこのためです。

最近、いわゆる「闇バイト」や「アポ電強盗」が話題となったため、犯罪が増え日本の治安が悪化していると思う人もいるかもしれません。しかし、犯罪認知件数は2021年までは戦後最小を更新し続けており、ピークだった2002年の4分の1程度です。では、なぜ私たちは犯罪が多いと思い、不安を覚えるのでしょうか。原因の1つとして考えられるのが犯罪報道です。「アポ電強盗」や殺人事件のような極端に凶悪な犯罪は実はあまり多くありませんが、珍しいためにかえって注目されて盛んに報じられます。それを繰り返し目にした私たちは凶悪犯罪が多いように感じてしまうことがあり、不安を覚えるようになるのです。

「厳罰に処せば人は再

KEY WORDS

科学的根拠のある実践

医学や心理学を含む広い領域で、科学的根拠のある実践（エビデンスベースド・プラクティス）が重視されています。アメリカ心理学会のホームページでは、心理学における科学的根拠に基づく実践を「患者の特徴、文化、および志向性という枠組みの中で得られる最新最善の研究エビデンスと臨床上の判断を統合させたもの」と定義しています。

eme.
nology

「精神生理学」
からのアプローチ

心理学」
アプローチ

犯をしなくなるのか」

厳しい罰を与えれば懲りて犯罪をしなくなる。これは本当でしょうか？答えはNoです。複数の研究で、犯罪者への罰を厳しくしても再犯率は下がらないか、むしろ社会全体の犯罪率が上がる事例もあることが明らかになっています。例えば非行少年を刑務所に連れて行きさまざまな嫌な思いをさせ改心させる「スケアードストレイト（脅してまっとうにする）」というプログラムは、少年が泣きじゃくり反省の言葉を述べるので一見効果があるように見えるものの、長期的には再犯率を上げることが知られている有名な介入の一例です。処罰感情や思い込みに流されず研究に基づく効果的な介入を行うことが、実際に再犯を減らし、次の被害者を生まない社会を作ることに役立ちます。

犯罪行動のリスク因子と介入の原則

再犯した人としていない人を比較した研究から、再犯した人に共通する「リスク因子」が明らかになっています。これらは過去の犯罪歴、反社会的態度（社会規範の軽視）、家庭内や職場・学校での問題などを含む8つの項目で「セントラルエイト」と呼ばれ、過去の犯罪歴を除く7つの要素を介入によって変化させることが、効果的に再犯率を下げる原則と言われています。

「生理反応から犯罪事実の『記憶』を探る」

いわゆる「嘘発見」といわれるものは、日本の警察ではポリグラフ検査と呼ばれています。ポリグラフ検査は、犯人が嘘をついたときの生理反応を調べていると思われがちですが、実はそうではありません。例えば、盗まれた財布に3万円入っていたとします。金額は犯人しか知りません。この状況で、財布に入っていた金額について「1万円」「3万円」「5万円」と尋ねていきます。無実の人であれば金額を知らないのでどの金額に対しても同じ生理反応が出ますが、犯人は金額を知っているので「3万円」に対して大きな生理反応の変化が出ます。これは質問に対して黙っていても反応が出ることから、嘘ではなく犯罪事実の『記憶』を反映していると考えられています。

KEY WORDS

ポリグラフ検査

ポリグラフとは複数の生理反応を同時に計測する装置のこと。ポリグラフ検査では、心拍数、呼吸、発汗などを同時に計測します。犯罪事実に関連した項目に対しては、心拍数が減少し、呼吸が遅くなり、発汗が増加します。

隠匿情報検査
（Concealed Information Test: CIT）

犯罪事実に関連する項目（裁決項目）と、それと同カテゴリーだが犯罪事実に関連しない項目（非裁決項目）を呈示する質問方法のこと。本文の例だと、3万円が裁決項目で、1万円と5万円が非裁決項目です。実験では、事実を知っている人を「知っている」と正しく判定できる確率は86%といわれています。

Pick up Topic

現代社会のあらゆる課題に対応するために心理職初の国家資格『公認心理師』を知る。

公認心理師とは

公認心理師とは、保健医療、福祉、教育などの分野において、心理学に関する専門的知識や技術をもって、支援を必要とする人の心理状態を観察・分析し、相談・指導したり、その関係者に助言したりする専門職です。
2017年に施行された公認心理師法に基づき、同志社大学心理学部および大学院心理学研究科では、受験資格を得られる教育体制を構築しています。

期待される活躍の場

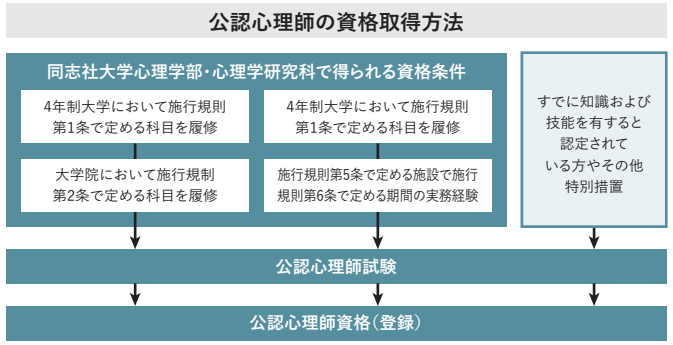
公認心理師は、さまざまな場で関係する多くの職種の人たちと連携して、それぞれの役割を理解し、チームの一員として専門性を発揮しつつ、個々の状況に応じた支援を行います。

例）・病院などの保健医療　・学校などの教育　・児童相談所や福祉事務所などの福祉
・矯正施設などの司法　・会社などの産業

公認心理師になるには

文部科学省、厚生労働省(以下、両省)が定める条件を満たして大学を卒業することが受験資格を得る第一条件となります。両省が定める条件を満たして大学院を修了することで受験資格を得ることもできます。

日本心理研修センターHPより



●学部
同志社大学心理学部では2018年度より資格取得に対応したカリキュラムを施行済みです。

●大学院
臨床心理学コースでは2018年度より資格取得に対応したカリキュラムを施行済みです。

他の関連資格

一定の業務と義務行為を法律で定められている国家資格である公認心理師のほかに、心理学を専門とする民間資格もあります。同志社大学心理学部では、学生の多様な要望に対応できる環境を整えています。

●学部
認定心理士／認定心理士（心理調査）
同志社大学心理学部を卒業時に「日本心理学会」が定める条件を満たした場合、任意で認定申請ができます。（職能資格ではありません）

●大学院
臨床心理士
臨床心理学コースは「日本臨床心理士資格認定協会」の第1種指定校の認定を受けています。そのため、臨床心理学コースを修了時に条件を満たしている場合は、受験資格が得られます。

Pick up Seminar

多種多様なゼミでの研究で こころに対する見聞を広めていく。

杉若 弘子ゼミ

目指すのは、テーラー・メイドな臨床実践

行動臨床心理学や臨床健康心理学の専門家である杉若先生。杉若ゼミでは、人と環境の相互作用に注目し、日常場面における効果的な行動マネジメントの方法やコミュニケーションと適応の関係について検討しています。また、「人によって異なる」という個人差に注目した検証を重ねることにより、テーラー・メイドな臨床実践につながる情報収集を行います。ゼミ生の関心や発想を手がかりにディスカッションを重ね、基礎研究と臨床・応用実践をつなぐ研究を目指します。

Key Words　セルフ・コントロール / 利他性 / 個人差

内山 伊知郎ゼミ

乳幼児から高齢期に至るこころの発達を探求する

子どもや高齢者の発達の様相を科学的な視点で研究する内山先生。内山ゼミでは「発達」をキーワードとして学びを深めています。乳児期から幼児期、そして高齢期までの発達プロセスで大きな変化が起きる時期があります。その時期を捉え、こころの成長する様子を科学的に研究します。幼児期の研究では幼稚園へ出向いた研究もよくされています。乳幼児期の成長は目覚ましく、子どもと接しながらその様子を科学の目で捉えます。

Key Words　乳幼児 / 感情発達 / 社会性発達

田中 あゆみゼミ

ヒューマン・モチベーションの基礎研究

ヒトの行動の理由についてヒューマン・モチベーションの視点から探究する田中先生。田中ゼミでは、個々の能力を最大限に引き出せる環境を作ることを大きなテーマに据え、より強力なモチベーションの法則を見つけるための基礎研究を行っています。研究成果は在学中に学術会議で発表されることもあります。また、日本で生まれた脳イメージング技術であるfNIRS（機能的近赤外分光法）を用いて、前頭前野の活性化とモチベーションの関連性を検討するグループも存在します。

Key Words　ヒューマン・モチベーション / 自律性・自己決定

この他にも魅力的なゼミを心理学部ホームページでご紹介しています。

及川 昌典ゼミ

意識と無意識 / 自己と他者 / 個人と社会

大屋 藍子ゼミ

創造的行動 / 生活習慣 / QOL（Quality of Life）

武藤 崇ゼミ

行動 / ことば / ウェルビーイング

詳細はこちらからご確認ください。

【URL】https://psych.doshisha.ac.jp/faculty/pickup/#l_navi

Graduate School

さらなる専門性を究める
同志社大学大学院 心理学研究科。

本学では、1961年に文学研究科心理学専攻修士課程、
1964年に同博士課程が設置され、2009年度から心理学研究科となりました。
さらに、2011年度からは前期課程に臨床心理学コースも設置しました。
長きにわたり、サイエンスとしての心理学を基礎とした高度な知識・技術の
総合的学習と研究能力の涵養を目指し、基礎研究領域と臨床実践領域の
いずれかに偏ることのない総合的な教育研究を展開しています。

国際性豊かで実践的な教育プログラムを通じ、現代社会のニーズに応じられる専門家を育成

現在、こころの問題は社会において広がりを見せ、病院だけでなく、企業、教育、司法の現場などで重視されています。本研究科では、実験心理学的アプローチをベースに、産学官の領域を超えた研究や実践活動を積極的に企画・実施できる人物を育成するために、斬新な教育プログラムを展開しています。また、同志社大学のスケールを活かして海外の研究者と活発な交流が行われています。心理学の専門家として科学の発展に貢献するために、自律的に研究を展開させる意欲と能力を備えた学生を求めています。

心理学研究科

前期課程

心理学研究科心理学専攻博士課程（前期）は、心理学について実証的立場からの高度な知識の蓄積を目的とするが、さらに基礎的実験技術の習得、また応用面での臨床的技術の習得を行い、本専攻で培った知識・研究方法を背景に、教育・司法・行政等の職種を中心とした健全なこころの成長に貢献できる人物を育成し、基礎的な問題から応用的諸問題にまで対応できる問題解決能力を持った研究者及び教育者の養成を目的とする。

心理学コース

本コースでは、心理学について科学的立場からの高度な知識の蓄積を目的とするが、さらに、基礎的実験技術の習得、プロジェクト企画・遂行能力の育成を行い、本専攻で培った知識・研究方法を背景に、教育・司法・行政及び各種企業での基礎的な問題から応用的な諸問題まで対応できる問題発見能力、問題解決能力を持った人材を養成することを目的とする。

求める力：心理学に関する幅広い基礎知識／研究運用能力（研究構想力、実践力、分析・考察力）

臨床心理学コース

財団法人 日本臨床心理士資格認定協会	第1種指定校
公認心理師（国家資格）	2018年度より受験資格に対応したカリキュラム施行 文部科学省・厚生労働省 確認済

本コースでは臨床心理学の知識の充実と、臨床における実践的な技能の習得を目指している。臨床心理学における方法論は多様であるが、本コースでは特に科学的視点に立ち実証的なアプローチを行うことを重視している。このような教育の姿勢を背景に、心理臨床センターにおける実践、学外研修における実践などを通して、研究能力を持ち実社会に貢献できる人材を育成する。

求める力：心理学に関する幅広い基礎知識／研究運用能力（サイエンティスト）／臨床実践力（プラクティショナー）

後期課程

心理学研究科心理学専攻博士課程（後期）は、前期課程において習得した心理学研究の知識・技術を基盤として、心理学における高度な専門的知識と研究能力を身につけた研究者を養成し、大学における専門分野の研究にとどまらず、産官学分野にまたがって基礎的な問題から応用的諸問題にまで対応できる問題発見能力とそれに対する解決能力を持った研究者及び教育者を養成することを目的とする。

各コースの担当教員

詳しくはP.17–18

心理学コース

青山 謙二郎（教授）
畑 敏道（教授）
神山 貴弥（教授）
藤村 友美（准教授）
中谷内 一也（教授）
竹原 卓真（教授）
田中 あゆみ（教授）
内山 伊知郎（教授）
余語 真夫（教授）
及川 昌典（教授）

臨床心理学コース

石川 信一（教授）
武藤 崇（教授）
毛利 真弓（准教授）
杉若 弘子（教授）
興津 真理子（教授）
大屋 藍子（准教授）

学内・学外実習

学内実習

臨床心理学コースでは、「同志社大学心理臨床センター」を活用し、学内実習を行っています。学内実習では、指導相談員（臨床心理学コースの大学教員）、専任の相談員といった臨床心理士の有資格者とともに実践を学びながら、伝統の少人数教育を継承したきめ細やかな教育が受けられます。

実習例 ケース陪席・担当／プログラム実習／アセスメント実習

学外実習

学外実習には、保健医療分野、教育分野、福祉分野、産業・労働分野や司法・犯罪分野の実習施設があります。なお、事前の予告なく記載している実習先施設を変更する場合があります。実習希望者は複数の施設について学外実習を行うことができます。

保健医療分野

- 医療法人栄仁会 京都駅前メンタルクリニック バックアップセンター・きょうと
- 医療法人栄仁会 宇治おうばく病院 サポートセンターみらい
- 医療法人栄仁会 宇治おうばく病院 臨床心理室
- 京都府立医科大学附属病院 等

教育分野

- 同志社中学校
- 同志社国際中学校
- 京田辺市教育委員会 適応指導教室（ボットラック） 等

産業・労働分野

- 株式会社 ジャパンEAP システムズ 関西支社

福祉分野

- 児童養護施設 京都大和の家
- その他情緒障害児短期治療施設や児童自立支援施設
- 株式会社 LITALICOワークス 京都駅前、四条大宮 等

司法・犯罪分野

- 法務少年支援センター京都（京都少年鑑別所）

各種研究支援制度

補助金制度

同志社大学大学院心理学研究科では、研究科生の教育・研究に対してさまざまな角度からこれを助成し、よりよい教育を受け、研究に専念できるよう環境の充実を図っています。

補助金例 ※事前の周知なく変更する可能性があります。

- 国内学会への参加にかかる交通費　・学外共同研究にかかる交通費・宿泊費　・各種コピーにかかる費用
- 刊行物の閲覧にかかる費用　・論文の抜刷にかかる印刷費　・海外学会への参加にかかる交通費
- 英文校閲費用　・論文投稿料

奨学金制度

同志社大学では、誰もが安心して学業に専念できるよう、同志社大学独自の奨学金を豊富に設けており、日本学生支援機構奨学金や民間・地方公共団体奨学金とあわせて総合的なサポートを行っています。

ポイント

- 給付制・貸与制（無利子）の奨学金が充実　・採用実績・採用人数が多い　・種類が豊富　・複数の奨学金を受給可能

日本学術振興会（学振）における特別研究員制度について

特別研究員制度は、優れた若手研究者に対して、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、研究者の養成・確保を図る制度です。研究者としての道を歩むために必要なキャリア形成として、論文等の発表を重ね、博士学位を取得することはもとより、博士後期課程在学中に日本学術振興会特別研究員に採用されることが、研究職のポジションをステップアップさせる上で大きなアドバンテージになります。特別研究員に採用されると、研究活動に専念できるよう奨励金が支給されるだけでなく、研究費が補助されることから、博士学位論文に必要なリサーチワークが大きく前進します。本学においても、毎年多くの大学院生が応募し、これに採用されています。

Pick up Research

1 時間の長さを測る 脳のしくみを探る

心理学部心理学科　畑敏道教授

時計がなくても、生き物は時間の長さを測れます。でも時間は物理的エネルギーを持たない、実在しない対象です。その意味で時間は「幻覚=対象なき知覚」です。そのような「幻覚」が、「モノ」としての脳のどのようなしくみやはたらきによって生み出されるのかに興味を持って調べています。「モノ」から「こころ」が生まれる現場を見たいと思っています。

2 家族を知ることが 個人と社会をつなぐ臨床力の鍵になる

心理学部心理学科　興津真理子教授

家族は私たちが最初に出会う社会であり、私たちは家族から多くのことを学び、社会を生き抜く術を身につけます。人は一人で生きているわけではありませんので、たとえ個人の心理療法を行う場合でも、家族をはじめとする重要な他者との相互作用を想定した心理的支援が必要となります。家族力動の見立て、介入に関する研究を行い、実践に役立てることを目指します。

大学院生キャリアサポート事業

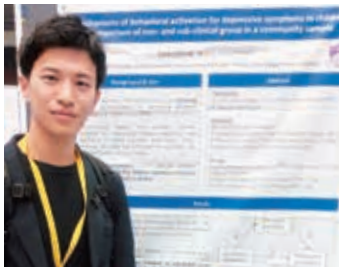
Academic Portfolio

「ALL DOSHISHA教育推進プログラム」採択プログラム

アカデミック・ポートフォリオを活用した セルフ・プロデュース型キャリア能力開発システムの構築

本取組みを通じて、個々の大学院生のキャリア・ビジョンに応じたきめ細やかな研究・実践指導、ならびに活動支援を行い、自己のキャリアを念頭に主体的に学び続けて未来を切り拓く人物の養成に努めています。

※ポートフォリオサンプル画面



セルフ・プロデュース型 キャリア能力開発システム

キャリア能力の到達度目標を設定

大学院生は自分のキャリア・ビジョンに応じてそのビジョンに適うキャリア能力を設定し、その年度における各キャリア能力の具体的到達目標を決める

キャリア能力を向上させるための活動に従事

- 研究会参加
- フィールドワーク
- 授業内での発表
- 自主勉強会の開催
- 学会発表
- 論文執筆　など

アカデミック・ポートフォリオの作成、成果の発信

①活動の成果を
- 紙媒体としてファイルに保存（一次保存）

②eポートフォリオの構築により
- 電子ファイルに保存（二次保存）
- Web上に公開（発信）

各キャリア能力の到達度を自己評価・相互評価

年度末に、アカデミック・ポートフォリオに基づき、キャリア能力の到達度を自己評価・相互評価することを通して、次年度のキャリア能力に関する到達目標や従事する活動計画を見直す

〈次年度〉

自己のキャリアを念頭に主体的に学び続けて未来を切り拓く人物の養成

- 明確なキャリア・ビジョン
- ビジョンに適うキャリア能力
- 学び続けようとする強い意志

を備えた人物へ

キャリア能力開発システムのノウハウを公開

↓

他研究科への波及

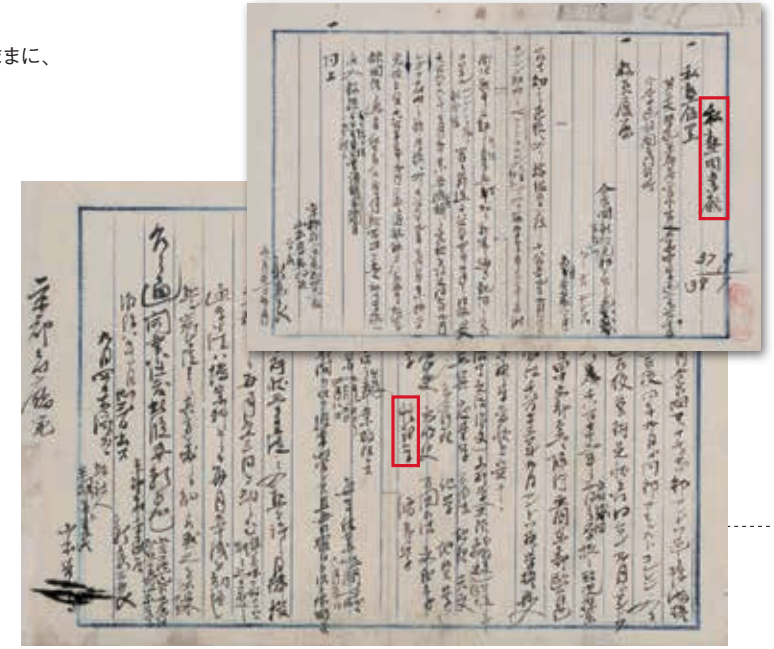
ポートフォリオや大学院生メッセージはこちらからご確認いただけます 〉〉 https://psych.doshisha.ac.jp/graduate/

伝 統 と 革 新

History

90年超の伝統を受け継ぎ進化する、同志社心理の歩み。

2009年4月、同志社大学12番目の学部として開設された心理学部。本学と心理学との関わりは古く、1927年より本格的な実験心理学の研究・教育を進めてきました。今後も長年の伝統と精神はそのままに、次代を見据え、新しい分野や国際化にも対応していきます。



2019 心理学部・心理学研究科 開設10周年記念事業を挙行

2018 「公認心理師」に対応したカリキュラム施行

2014 「こころの科学研究センター」を設置
※2022年度をもって閉鎖

2013 「実証に基づく心理トリートメント研究センター」を設置
※2015年度に「実証に基づく心理・社会的トリートメント研究センター」に名称変更

2012 心理学研究科 心理学専攻臨床心理学コースが、財団法人 日本臨床心理士資格認定協会第1種指定大学院に認定

2011 心理学研究科では、「心理学コース」「臨床心理学コース」の2コース制がスタート

2010 今出川校地・継志館に「心理臨床センター」を開設
※2019年度に新町キャンパス・尋真館へ移転

2009 心理学部・心理学研究科を開設
これまでの教育目的の根幹である「こころと行動の基本的性質と法則性を実験や調査などを通して実証していく」ことと、「こころと行動に関する臨床・応用研究と実践活動に取り組む」という2つの目的を不可欠な両輪として捉え、2009年に世界水準の新たなる学部・研究科の開設を実現しました。次代を見据え、世界的潮流に応えた、良心を手腕に運用する人材の輩出を目指しています。

2008 「赤ちゃん学研究センター」を設置。
※現在は研究開発推進機構の組織として活動中

2007 文部科学省大学院教育改革支援プログラムに採択される。

2005 文学部の改組により心理学科を設置。また「こころの生涯発達研究センター」「感情・ストレス・健康研究センター」を設置。

1986 京田辺校地開校に伴い、京田辺心理学実験室を設置。

1967 文学部文化学科において教育学専攻と心理学専攻に分離。

1964 大学院文学研究科に心理学専攻博士課程を設置。

1961 大学院文学研究科に心理学専攻修士課程を設置。

1948 新制大学の発足とともに、文学部文化学科教育学および心理学専攻として再出発。遠藤汪吉、松山義則の各教授が中心となり、新時代の心理学研究・教育の基盤整備を進める。

1927 実験心理学の歴史と伝統は、ここから始まった
1927年に文学部哲学科心理学専攻を設置。以来、実験心理学研究を究めていく本学の心理学実験室の伝統が刻まれてきたのです。初代教授の1人、本宮弥兵衛は東京慈恵会医院医学専門学校で医学を学び、同志社神学校で神学を学んだ後、オベリン大学、イエール大学で実験心理学を修め、本学における心理学実験室の礎を築きました。

1875 新島襄によって開講された同志社英学校の科目「性理学（心理学）」
本学における心理学の研究・教育の起源は、同志社大学の前身である官許同志社英学校まで遡ります。新島襄が1875年に京都府庁に提出した「私塾開業願稿」に開講科目の1つとして「性理学（心理学）」が記されています。日本の現代心理学の礎を築いたとされる東京帝国大学の初代教授となった元良勇次郎と、京都帝国大学の初代教授となった松本亦太郎は、ともに同志社英学校草創期の学生でした。

教員紹介

Professors

あなたの知的好奇心に応える、心理学エキスパート。

それぞれの［専門領域］［現在の研究テーマ］を紹介。
心理学のエキスパートとともに、心理学の世界へ踏み出しましょう!

内山 伊知郎 教授

［専門領域］
- 発達心理学
- 交通心理学

［現在の研究テーマ］
- 乳幼児から高齢期までの発達心理学
- 交通安全の発達心理学

鈴木田 英里 助教

［専門領域］
- 発達臨床心理学
- 家族の支援

［現在の研究テーマ］
- 発達障害児及び知的発達症児をもつ家族の家族レジリエンスを促進する支援
- 家族レジリエンスが促進、あるいは阻害されるプロセス

中谷内 一也 教授

［専門領域］
- 社会心理学
- リスク心理学

［現在の研究テーマ］
- 災害や各種リスクに対する認識と行動

藤村 友美 准教授

［専門領域］
- 精神生理学
- 感情心理学

［現在の研究テーマ］
- コミュニケーションの心理的・生理的基盤の解明

興津 真理子 教授

［専門領域］
- 家族心理学
- 臨床心理学

［現在の研究テーマ］
- 家族造形法による事例検討がもたらす効果について
- グリーフケアにおける家族へのアプロチ

毛利 真弓 准教授

［専門領域］
- 犯罪心理学
- 臨床心理学

［現在の研究テーマ］
- 性暴力に対する治療教育
- 共同体と関係性を基盤とする犯罪行動変化への介入（特に刑務所内治療共同体）
- 犯罪行動を手放す（離脱）プロセス

青山 謙二郎 教授

［専門領域］
- 学習心理学
- 行動分析学
- 食行動の心理学

［現在の研究テーマ］
- 食べる行動の実験心理学的研究
- 衝動的行動の行動分析学的研究
- 動機づけ行動のセッション内減少

畑 敏道 教授

［専門領域］
- 生理心理学
- 行動学的神経科学

［現在の研究テーマ］
- 時間評価や記憶の脳内過程に関する研究

武藤 崇 教授

［専門領域］
- 臨床言語心理学
- 生老病死を考える心理学

［現在の研究テーマ］
- 言語行動理論（関係フレーム理論を含む）による心理療法場面におけるプロセス研究
- アクセプタンス&コミットメント・セラピー（ACT）に関するプロセス、アウトカム研究
- 家族の認知症介護負担感の支援方法に関する研究
- 人が抱える根源的な苦悩（生老病死）に関する研究

竹原 卓真 教授

[専門領域]
- 認知心理学
- 複雑系心理学

[現在の研究テーマ]
- 複雑系や複雑ネットワークを通じた認知心理学的研究

石川 信一 教授

[専門領域]
- 臨床児童心理学

[現在の研究テーマ]
- 子どもを対象とした認知行動療法
- 学校ベースのメンタルヘルス予防プログラム
- 児童青年期における異常心理学的研究

津田 裕之 助教

[専門領域]
- 認知心理学
- 視覚心理学
- 認知科学

[現在の研究テーマ]
- 知覚、記憶、意識などについての実験心理学的研究
- 顔魅力や芸術などについての感性心理学的研究
- VRや画像解析などの技術を用いた研究

及川 昌典 教授

[専門領域]
- 社会心理学

[現在の研究テーマ]
- 意識と無意識
- 自己と他者
- 自由意志

神山 貴弥 教授

[専門領域]
- 学校心理学
- 教育社会心理学

[現在の研究テーマ]
- 開発的・予防的生徒指導と子どもの心理・社会的発達
- 感情欲求が態度に及ぼす影響

神原 広平 助教

[専門領域]
- 臨床心理学
- 認知行動療法
- 抑うつに対する予防的アプローチ

[現在の研究テーマ]
- ネガティブな考え込み（反すう）と抑うつの関係の検討
- 反すうに対するWebベースのプログラムの開発
- 高等学校等におけるユニバーサルな抑うつ予防プログラムの開発 など

余語 真夫 教授

[専門領域]
- 臨床社会心理学
- アフェクティブ・サイエンス（感情科学）

[現在の研究テーマ]
- 感情の生成と変容における言葉の役割の実験心理学研究

田中 あゆみ 教授

[専門領域]
- ヒューマン・モティベーション

[現在の研究テーマ]
- 達成目標の効果に関する研究
- 自律性・自己決定とその支援に関する研究

杉若 弘子 教授

[専門領域]
- 臨床心理学
- パーソナリティ心理学

[現在の研究テーマ]
- 個人と状況に応じたセルフ・コントロール
- ソーシャル・サポートの授受とメンタルヘルス
- 心理療法に対する期待と好み

大屋 藍子 准教授

[専門領域]
- 臨床行動分析

[現在の研究テーマ]
- 糖尿病・肥満症患者への心理・社会的支援に関する研究
- 行動変動性の増大に関する研究

施設・設備

Facilities

先進の
実験実習施設を備えた
充実の環境。

京田辺キャンパス・知証(ちしょう)館南館に
実験施設が整備され、
さらに香柏(こうはく)館にも研究室や
プロジェクト演習室が設置されました。
同志社心理ならではの
実験的手法を重視した教育と研究を、
発展させていく環境と設備が整っています。

生体信号計測装置・電磁シールドルーム
脳の働きなど微細な生体現象を測定する部屋です。

3次元顔画像撮影解析装置(VECTRA)
人間の顔を3次元で撮影することができ、あらゆる方向から解析することができます。

プロジェクト演習室
レポート作成などを主体的に行うための拠点として利用します。

機能的近赤外線分光法(fNIRS)
生体透過性の高い近赤外光を頭部に照射し、生体内から反射される光の
一部を検出することで、脳表面の活動状態を可視化する装置です。

PCコーナー
全学生が本学のパソコンおよびネットワークを利用可能です。

スキナー箱
ラットにレバー押しの学習をさせる装置です。

一方向気流式飼育システム
最大160匹のラットが飼育可能な自動給水・洗浄ラックを導入しています。

フリーラウンジ
学生が自由に学習できる部屋です。

大学院共同研究室
大学院生用に机やパソコンを整備した部屋です。

クライオスタット
脳切片の標本を作製するための装置です。

モニター室
他の部屋の様子を映像でモニタリングします。

手術室
脳の外科的処置や薬理学的処置を行います。

行動観察室
主に実習授業で面接の練習や行動観察に使います。

グループセラピー室
グループを対象とした心理療法を行う部屋です。

視線計測装置
認知行動の解析を行うための装置です。

誌上座談会

Talk Session

目に見えない人間の「心」に、興味を抱いて。

目に見えない「人の心」を科学的に分析する同志社の心理学。その分野は多岐にわたり、あらゆるものが研究対象になります。家族内コミュニケーションや夫婦関係、親子関係など、家族を中心テーマとした研究を専門とする興津先生と、3名のゼミ生に、同志社心理で得た学びや力について語っていただきました。

初めに、心理学部を志望した理由と入学後に感じたことを教えてください。

西川さん：私は4人兄弟の末っ子なのですが、同じ家で一緒に育っていても兄弟の性格が全く違うことから、人間の内面に興味を持つようになりました。そして「人間の性格はどういう要素で決まっていくのかな」と考えるようになり、好奇心のおもむくままに心理学部を志望しました。

山守さん：私が心理学に興味を持ったのは、高校1年生のときにあった「テーマをひとつ決めて論文を書いてみよう」という授業がきっかけです。「なぜ血液型占いなどの心理テストは科学的根拠がないのに信じられているのか」をテーマにしたのですが、発表のために心理学について調べていく中で、目に見えない心の動きを言葉にしていくところが面白いと思いました。また実際に学んでみると、実は統計学や理系の科目が多く、科学的であることを知りました。

清水さん：もともと子どもが好きで幼稚園の先生になりたいと思っていました。けれど大勢ではなく一人ひとりの子どもとじっくり関わる仕事がしたいと思うようになり、スクールカウンセラーになることを目指して心理学部を志望しました。心理学というとカウンセリングのイメージがあったのですが、授業では動物や機器を使った実験があることに驚きました。

興津先生：みなさんの志望理由がさまざまなように、心理学を学びに来られる方の動機はバラエティに富んでいます。本などで心理学に触れて関心を持った人もいますし、西川さんのように身近なきっかけから人の心に興味を持っている人もいます。また、自分や家族が苦しんだ経験から「自分も誰かが苦境にあるときに手助けできるようになりたい」と考えて心理学を学ぶ人も少なくありません。

研究テーマについて教えてください。

山守さん：卒業研究では遺品を手放さず持っておくことに故人との関係がどう影響するのか調査を行いました。

西川さん：私は「きょうだい構成、親からのきょうだい間の比較が個人の自己実現に与える影響」について研究しました。心理学の研究は答えのない問いが多いですが、突拍子もない考えから説を立てるのではなく、先行研究など信頼性ある根拠から論理を立て、検証することの大切さを卒論執筆で学んだと思います。

興津先生：論理展開は心理学部として大事にしているところですので、しっかりと修得してくれたのは嬉しいですね。

清水さん：人の心を理解する力をメンタライゼーションというのですが、その形成に母親がどのような影響を持つのかについて、私は研究しました。

心理学を学ぶ中で印象に残っていること、成長したなと思うことはありますか。

西川さん：私は興津先生の家族心理学の授業がすごく印象に残っています。夫婦間や家族間において知っておくと日常生活を彩ってくれそうな内容で、身近ですごく面白いものでした。まだレジュメを大事に置いてあります。

興津先生：心理学は、私たちの日常生活と密接に関わる学問です。心理学の基礎的な力を身につけることで、身近なことについても自分の考え方を客観的に分析し、より良い判断を下すことができるようになります。

山守さん：授業の中では、実習が印象に残っています。単なる知識だけでは現場での実践に役立てることができないことがよく理解できました。大学院に進んだ際には、さらに実習経験を積んでより現場で活躍できるよう努力していきたいです。

清水さん：私の場合は、大学院の実習の中で、「以前は苦手だった脳の機能に関する勉強もしっかり学んでおくと実践で役立つ」という経験をし、学部時代に基礎を学ぶ重要さを実感することができました。

興津先生：公認心理師、臨床心理士になりたいと思う学生は、演習や実習を通して自分のできることと課題を見極めていきます。それらを言語化して認識し、向き合えるようになるのは大事なことですね。

卒業後の進路について教えてください。

山守さん：大学院に進学予定です。公認心理師の資格を取って、法務技官になりたいと思っています。学部卒でも法務技官になることはできるのですが、もう少し心理学を学びたいですし、病院などの現場経験を積んでから法務に関わったほうが良いと思い、大学院進学を選びました。

清水さん：私は奈良県で心理判定員として働く予定です。もともと子どもとじっくり関わりたいと思っていましたが、大学院の実習で児童相談所の一時保護所を経験したことが進路を決めるきっかけになりました。家族支援と子ども支援の両方ができるところに魅力を感じています。

興津先生：心理支援の仕事は大変ですが、人が生きていく力を得て、人生を切り拓く瞬間に立ち会えたときは心から感動しますよ。西川さんは、一般企業に就職されますね。

西川さん：私の就職先は人材業界で、クライアント企業と求職者の間に入り、新しい雇用を創出していく仕事です。社会に出れば、解決策がない難しい問題にも直面することがあると思いますが、心理学を学んで自己判断力を養ったので、その知識を仕事に活かしていきたいと考えています。

興津先生：心理学の学びを通して「与えられた情報や疑問に思ったことを鵜呑みにせず自分で確かめられる力」が身についていると思います。ぜひお仕事に活かしてください。

最後に、高校生へのメッセージをお願いします。

清水さん：心理職として働くためには、生物・心理・社会モデルに基づいたアプローチが必要となりますが、同志社の心理学部では各分野を網羅的に学ぶことができるので、多角的な視点から見立てや支援を行うことができます。心理学に興味はあるけどどの分野を専門に勉強するか悩んでいる方には、各分野を全般的に勉強できる同志社の心理学部はぴったりだと思いますね。

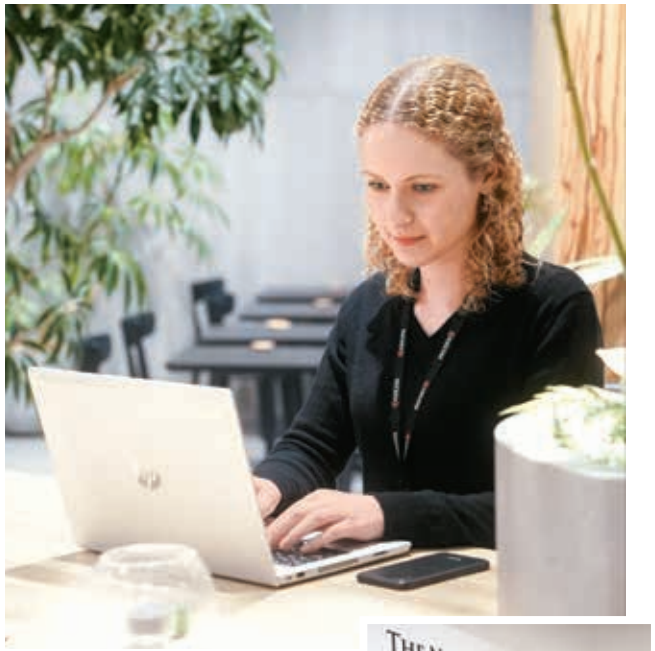
西川さん：他の学部に比べて何を学んでいるかがわかりにくい印象がありますが、人の心を科学的なアプローチで解明する面白さがあります。そして心理学が日常に通じる学問であることを実感できると思います。人の心に興味がある人にはとても楽しい学びになるはず。心理学部で得た知識は、きっとみなさんの日常を彩ってくれます。

山守さん：心理学はとても身近な学問です。知識の修得はもちろんですが、自分にも心当たりのある事象や生活の中でなんとなく疑問に思っていたことなどが、授業の中で解明されたりもします。そのためどんな人でも興味のわく学問なのではないかなと思います。

興津先生：同志社の心理学部は多様な心理学の領域を追究している先生がたくさんいますので、学生の好奇心を満たすのに十分な環境だと思います。先生方もみんな心理学が好きで楽しみながら研究しているので、その雰囲気を感じてもらえると嬉しいですね。ぜひ同志社大学で思う存分心理学を学んでください。

— ありがとうございました。

卒業生 Interview



海外出向者のモチベーション向上に貢献していく。

アメリカに住んでいた幼少期から日本人と関わることが多く、日本で心理学を学びたいと思っていました。充実した設備と実験などの実践的な学びに惹かれ、同志社心理へ。大学で外国人留学生や留学を目指す日本人学生を支援することに喜びを感じていたため、卒業後もその経験を活かせる企業の海外人事を志望しました。現在の主な仕事は海外出向者のサポート。事務手続き以外に海外での働き方についてサポートすることも。そんな時には産業心理学や教育社会心理学で学んだ組織の在り方や集団に関する知識が発揮されます。社員に安心と働きがいを与えられるこの仕事に、誇りを持って取り組んでいます。

京セラ株式会社
海外人事部・地域担当
プラット カトリーナさん　2021年卒業

佐賀県の子どもたちのより良い生活と笑顔のために。

私は今、佐賀県庁の心理職員として、児童相談所や知的更生相談所で子どもや保護者の方との面接・知的な障害のある方の障害の程度の判定を行っています。きっかけは大学の学校心理学の講義で募集されていた児童相談所でのボランティアに参加したこと。さまざまな課題を抱える子どもと触れ合う中で、私も子どもとそのご家族の力になりたいと思うようになりました。心理学部で行動のメカニズムや発達・臨床の基礎など幅広い分野の心理学を学べたことが、今子どもたちの言動に対する理解や支援に活かせていると感じます。今後も子どもたちの笑顔とより良い生活のために、日々勉強し、スキルを磨いていきたいです。

佐賀県庁
健康福祉部 総合福祉センター（児童心理司・心理判定員）
吉村 未来さん　2019年卒業

心理学部
Career Story

一般企業や病院、公務員など多様な進路を
実現してきた卒業生たちの声を
心理学部ホームページでご紹介しています。

▼詳細はこちらからご確認ください。

https://psych.doshisha.ac.jp/career/story/#l_navi

※掲載している所属先名や写真等はすべて取材時のものです。

就 職 ・ 進 路

Career

多彩な分野への就職・進学が可能です。

学校教諭免許や公認心理師／認定心理士などの資格取得、企業や公務員など幅広い業界への就職実績があります。また、高度な知識と技術を学ぶ大学院への進学、その専門技能を活かした心理家への道もあります。

取得できる免許・資格

- 小学校教諭1種※1
- 中学校教諭1種（社会）
- 高等学校教諭1種（公民）
- 図書館司書
- 学校図書館司書教諭
- 博物館学芸員

※1 神戸親和大学通信教育部児童教育学科および佛教大学教育学部教育学科（通信教育課程）との提携による

関連資格

詳しくはP.11

- 公認心理師（国家資格）※2
- 臨床心理士※3
- 認定心理士、認定心理士（心理調査）

※2 公認心理師（国家資格）の受験資格について
学　部:資格取得に対応したカリキュラム施行済
大学院:資格取得に対応したカリキュラム施行済
最新の情報については心理学部・心理学研究科のホームページで随時お知らせします。

※3 本学の心理学研究科(前期課程)臨床心理学コース修了者に受験資格が与えられます。

幅広い業界で活躍できます

これまでの心理学科卒業生の実績を見ると、メーカー、金融、商社、サービス、情報・通信、公務員など幅広い分野への就職、大学院や海外の大学への進学などが挙げられます。業種では、製薬会社、医療関係会社、病院、教育・臨床分野、マスコミ、企業のリサーチ部門、児童相談所、家庭裁判所、教育産業など、さまざまな分野で活躍しています。

過去3年間の主な就職・進学実績

［就職先］※社名は就職した時点のものです

- アクセンチュア(株)
- 朝日放送グループホールディングス(株)
- 味の素AGF(株)
- 大阪ガス(株)
- 大阪府
- (株)一条工務店
- (株)ADKホールディングス
- (株)NTTデータ
- (株)NTTドコモ
- (株)京都銀行
- (株)JR東日本情報システム
- (株)JTB
- (株)滋賀銀行
- (株)すかいらーくホールディングス
- (株)SCREENホールディングス
- (株)髙島屋
- (株)ニトリ
- (株)ニトリホールディングス
- (株)バンダイ
- (株)ベイカレント・コンサルティング
- (株)村田製作所
- (株)LITALICO
- 関西電力(株)
- 京セラ(株)
- 京セラコミュニケーションシステム(株)
- 京都市
- 京都府
- 警視庁
- 神戸市
- 興和(株)
- 国税専門官
- 国立大学法人大阪大学
- 国家公務員（一般職）経済産業省
- 国家公務員（専門職）法務省矯正心理専門職
- 国家公務員（専門職）法務省法務教官
- 国家公務員（総合職）法務省
- 裁判所職員（総合職）家庭裁判所調査官補
- JFE商事(株)
- 積水ハウス(株)
- ダイキン工業(株)
- 大日本印刷(株)
- 宝ホールディングス(株)
- テルモ(株)
- 東海旅客鉄道(株)
- 東京海上日動火災保険(株)
- 奈良県
- 日本生命保険相互会社
- 日本通運(株)
- 任天堂(株)
- 野村證券(株)
- パナソニック(株)
- パナソニックグループ労働組合連合会
- 浜松ホトニクス(株)
- 星野リゾートグループ
- みずほ証券(株)
- みずほフィナンシャルグループ
- 三井住友海上火災保険(株)
- 三菱重工業(株)
- 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)
- 森永乳業(株)
- 有限責任監査法人トーマツ
- りそなグループ　他

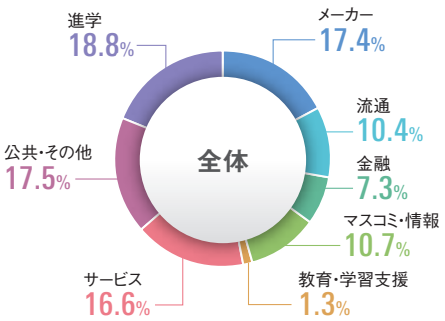
（五十音順）

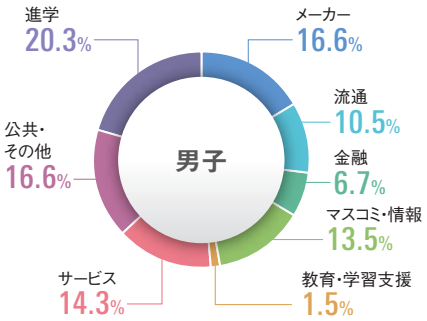
［進学先］

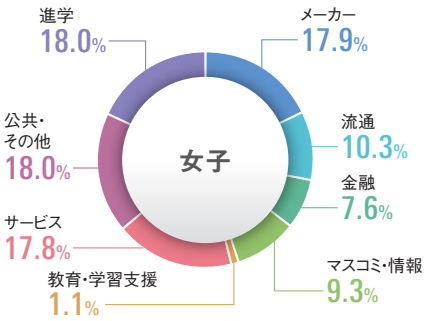
- 大阪公立大学大学院　生活科学研究科
- 大阪大学大学院　人間科学研究科
- お茶の水女子大学大学院　人間文化創成科学研究科
- 九州大学大学院　人間環境学府
- 京都大学大学院　教育学研究科
- 神戸大学大学院　人間発達環境学研究科
- 筑波大学大学院　人間総合科学学術院
- 東京大学大学院　教育学研究科
- 同志社大学大学院　心理学研究科
- 名古屋大学大学院　教育発達科学研究科
- 名古屋市立大学大学院　人間文化研究科
- 奈良女子大学大学院　人間文化総合科学研究科
- 兵庫教育大学大学院　学校教育研究科
- 広島大学大学院　人間社会科学研究科
- 早稲田大学大学院　文学研究科　他

（五十音順）

過去3年間の卒業生の進路







学部概要・入学試験情報

学部概要

［学部名称］心理学部
［　学　位　］学士（心理学）
［学科構成］心理学科（一学科制）
［入学定員］158名
［設置場所］京田辺校地：京都府京田辺市多々羅都谷1-3

入学試験情報

- 一般選抜入学試験（全学部文系、全学部理系、学部個別）
- 大学入学共通テスト利用入学試験
- 自己推薦入学試験
- 第3年次転入学・編入学試験
- 外国人留学生入学試験

学内・学外連携

Collaboration

豊かな交流が
総合的な学びとなります。

京田辺校地を主たるキャンパスとして展開することにより、
2008年に開設した生命医科学部・研究科やスポーツ健康科学部・研究科、
また、文化情報学部、グローバル・コミュニケーション学部、
理工学部・研究科といった学部群と連携した総合的な学びが可能になりました。
心理学部は、こころを扱う領域として社会に貢献するため、
産業界や教育・医療機関等と連携した実践的な教育・研究を目指します。

学内連携

今出川校地

- 人文・社会科学系学部・研究科

京田辺校地

- 理工学部・研究科
- 文化情報学部・研究科
- 生命医科学部・研究科
- スポーツ健康科学部・研究科
- グローバル・コミュニケーション学部
- 脳科学研究科

学外連携

- 産学共同のプロジェクト
- 海外研究者との活発な交流
- 海外大学への充実した留学制度

同志社大学 心理学部・心理学研究科

［心理学部・心理学研究科と学内・学外連携イメージ］

大学院

※財団法人 日本臨床心理士資格認定協会「第1種指定大学院」

- 心理学コース
- 臨床心理学コース

今出川校地（新町キャンパス）

- 心理臨床センター

尋真館 心理臨床センター

研究センター

実証に基づく心理・社会的トリートメント研究センター

Center for Wing of Empirically Supported Treatments(WEST)

実証に基づく心理療法の開発・普及・研究を目的とした、
西日本を中心とした研究者のネットワーク

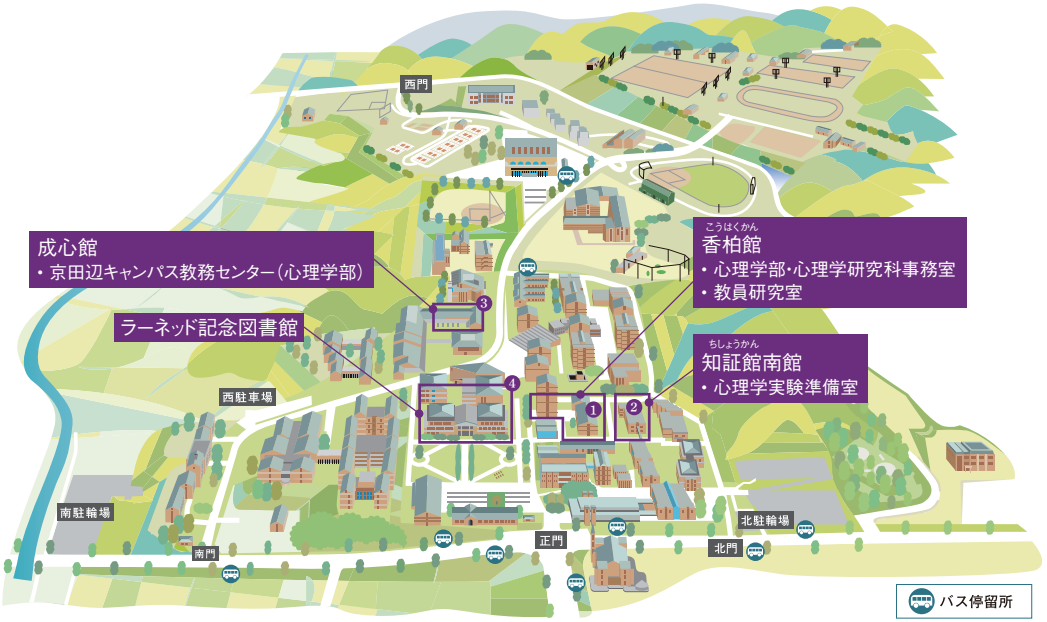
近年、日本においても「実証に基づく心理・社会的トリートメント」（Empirically Supported Treatments; EST）の開発やその普及が重要視されるようになってきています。本センターは日本でのより本格的な「実証に基づく心理・社会的トリートメント」の開発・普及を推進するため、特に西日本における中心的な役割を担うことを目的としています。

WESTシンポジウム

キャンパスマップ（京田辺キャンパス）

広大なキャンパスに、最先端の教育設備を導入。

1986年に開設された京田辺キャンパス。約9,000人が学生生活を送る総面積79万㎡の広大な敷地には、マルチメディアライブラリを備えたラーネッド記念図書館をはじめ、最先端の実験設備・機器がそろう各種実験棟や、同志社ローム記念館、情報メディア館などの情報教育設備も整えられています。



❶ 香柏館（こうはくかん）
・心理学部・心理学研究科事務室
・教員研究室

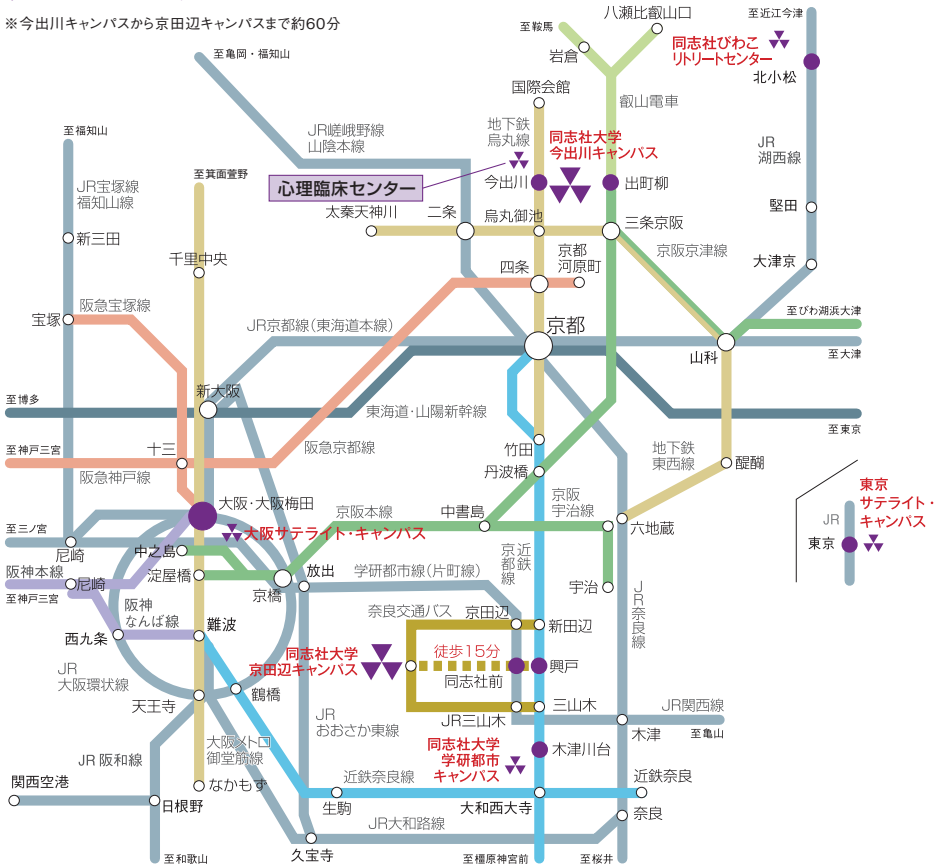
❷ 知証館南館（ちしょうかん）
・心理学実験準備室

❸ 成心館
・京田辺キャンパス教務センター（心理学部）

❹ ラーネッド記念図書館

アクセスマップ

※今出川キャンパスから京田辺キャンパスまで約60分



京田辺校地

- 近鉄「興戸」駅から徒歩15分
- 近鉄「新田辺」駅からバスで8分
- 近鉄「三山木」駅からバスで5分
- JR「同志社前」駅から徒歩10分

今出川校地

- 地下鉄「今出川」駅から徒歩1分
- 京阪「出町柳」駅から徒歩15分

学研都市キャンパス

- 近鉄「木津川台」駅から徒歩13分

同志社大学 心理学部 シンボルマークについて

同志社の象徴であるワイルドローヴァー号と、心理学（psychology）を表すギリシャ文字のΨ（プサイ）を組み合わせて図案化しました。古典的なエンブレム風のデザインと創立年を示す「SINCE 1927」の文字は、同志社大学心理学部にふさわしい伝統と品位を表現しています。ワイルドローヴァー号の帆を掲げ、新天地へ渡った新島襄の志と探求心が今に生きていることを表す、堂々としたイメージのマークです。

同志社大学 心理学部

〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷1-3
TEL：0774-65-8220　FAX：0774-65-8223
E-mail：jt-snrjm@mail.doshisha.ac.jp

さらに詳しく知りたい人は

同志社大学 心理学部ホームページ

https://psych.doshisha.ac.jp/

日英サイト開設

_Point 1　パンフレットには収まりきらなかった
インタビュー記事を掲載!

_Point 2　イベントなど、学部に関する
最新情報を続々配信中!

_Point 3　「心理学部生の1日」など、
学生たちのリアルライフも公開!

書籍紹介

『ようこそ、心理学部へ』

先生コメント

この本では心理学部を“紙上体験”していただきます。
読者は心理学部2年次生となり、ある1週間の専門講義科目7コマに出席します。内容は実際の講義を再現するもので、定番のテーマや興味深いトピックスが取り上げられています。専門講義科目といっても本書は初めて心理学に接する読者を想定しています。
各講義は心理学の基礎知識がなくても理解できますので、その点ご安心下さい。
さあ、心理学部の大学生がどんなことを勉強しているのか、体験してみましょう。
発刊責任者 中谷内 一也

書籍名:『ようこそ、心理学部へ　同志社大学心理学部編』
出版社:筑摩書房　版型:新書版　ページ数:208頁　発刊日:2022/3/8

お求めは全国の書店または、
筑摩書房のHPへ
https://www.chikumashobo.co.jp/product/9784480684219/

心理学部ホームページでも
紹介しています
https://psych.doshisha.ac.jp/book/